

公立大学法人 大分県立芸術文化短期大学  
平成18事業年度の業務実績に関する評価結果

(全体評価)

(大項目評価)

平成19年8月

大分県地方独立行政法人評価委員会

## 1 全体評価

### 評価結果と判断理由

#### 評価結果

全体として年度計画及び中期計画を順調に実施している。

#### 判断理由

大項目ごとの評価は、「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」、「業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「財務内容の改善に関する目標」、「教育、研究、社会貢献及び組織運営の状況に関する自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標」、「その他業務運営に関する目標」のいずれの項目もA評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

各大項目の特筆すべき事項の代表的なものとしては「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」の項目において、平成19年2月に2年制認定専攻科が大学評価・学位授与機構に認定され開設されたこと、大分市と包括連携協定を締結するなど地域社会との連携が推進されていること、また、「財務内容の改善に関する目標」の項目において、光熱水費の削減目標5%を掲げ、削減対策を定めて教職員に周知し、経費削減に取り組んだ結果、対前年比10%の削減をしていることなどがあった。

以上の大項目評価を考慮して全体評価の結果としては、「全体として年度計画及び中期計画を順調に実施している」とした。

#### （委員会からのコメント）

- ・地方独立行政法人化した大分県立芸術文化短期大学の運営は、中期目標を立て、その上で年度ごとの計画を立てその業績をチェックしていく枠組みだが、その滑り出しである1年目は非常に順調に進んでいる。中期目標の達成に向けてさらにこの枠組みの中でより成果が出るように期待する。

【参考：大項目評価の結果】

教育研究等の 質の向上	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
業務運営の改 善及び効率化	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
財務内容の改 善	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
自己点検・評 価並びに情報提 供	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
その他業務運 営	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

## 2 大項目評価

### 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

#### (1) 評価結果

	S	A	B	C	D
評価結果	特筆すべき 進行状況	計画どおり	おおむね 計画どおり	やや遅れて いる	重大な改善 事項あり

#### (2) 判断理由

小項目評価の集計結果では、146項目全てが 又は の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

「大項目評価にあたり勘案した事項」に示したように、芸術系の学科において2年制認定専攻科開設を目指した取組の結果、平成19年2月に大学評価・学位授与機構から認定され2年制認定専攻科が開設されたことや、大分市との包括連携協定の締結など地域貢献の取組が進められたことなど、計画以上の成果を達成した事項が見受けられた。

他の各項目の中に「十分に実施できていない」若しくは「実施していない」項目は認められない。

以上のことから、大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

#### 【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

##### 特筆すべき項目

小項目評価が（計画を上回って実施している）の項目は次のとおりであった。

(( )は小項目評価の記号【 】はウエイト付け)

一般教養科目に新設する「芸術文化 」、「芸術文化 ）」において、芸術文化とアート・マネジメントに関する講義と鑑賞を行い、また、1年生を対象に過去2年間行ってきた「特別芸術文化鑑賞」を継続実施 ( -1-(1)ア(ア)f)【2】

・新設した「芸術文化 」、「芸術文化 ）」にて授業を行い、また、1年生を対象として「特別芸術文化鑑賞」を前期2回、後期3回実施した。

各学科において、専門教育の現状の問題点を洗い出し改善策を検討

( -1-(1)イ(ア)a)【2】

・美術科は、現代の学生のニーズに合った魅力ある専門科目の新設を検討、音楽科は、ソルフェージュの授業を従来の2時間1コマから1時間ずつの小編成多クラスへの変更を決定、国際文化学科は、カリキュラムに関するアンケートを教員対象に実施、情報コミュニケーション学科は、主体的に自己を表現し社会に参加する能力の育成を考える学科カリキュラムへの変更を決定した。

各学科において、必修科目と選択科目の配置の現状の問題点を分析し、改善策を検討

( -1-(1)イ(ア)b)【2】

・美術科は、必修科目と選択科目をシンプルにまとめることについて検討し、音楽科は、来年度から「ピアノ副 ）」を選択科目にすることを決定し、国際文化学科は、1年次生の必修科目として「教養ゼミナール」を新設し、授業で用いるテキストを作成、情報コミュニケーション学科は、メディア領域と情報科学領域の選択科目の統合整理を行い、「新聞雑誌制作演習 ・ 」、「コンピュータ・グラフィックス演習」、「スポーツの分析と評価」を開設することとした。

- 芸術系について、平成19年度の2年制認定専攻科開設を目指した準備の推進  
( -1-(1)イ(ア)d)【2】  
( -1-(1)エa)【2】
- ・専攻科改編準備委員会を開催し、専攻科の内容について審議を重ねた結果、平成18年9月末、大学評価・学位授与機構に認定専攻科申出書を提出し、平成19年2月に2年制認定専攻科が認定され新設された。  
音楽科の、全国的な演奏会や地域の音楽祭への学生の参加を積極的に促進し、そのための環境整備を検討、「地域巡回演奏会」「若さあふれるコンサート」等、地域社会における演奏活動の一層の充実  
( -1-(1)イ(イ)ab)【2】
  - ・「地域巡回演奏会」「若さあふれるコンサート」「上野の森アートフェスタ」「オペラ公演」クリスマスコンサート「名曲の夕べ」、「アンサンブルの夕べ」、「学外卒業修了演奏会」を開催した。  
学費の減免制度や奨学金制度について他大学の事例を調査 ( -1-(4)ア(イ))
  - ・学費の減免制度については九州地区の公立大学・短期大学の事例を調査し、従来の免除制度の対象者や金額の見直しを行うとともに、大分大学の事例を参考に、授業料奨学融資制度を創設した。  
インターンシップのための全学的な実施体制の整備及びインターンシップの教育的効果の増加  
( -1-(5)イ(ア)b)【2】
  - ・新たな実施計画を策定し、5～7月に準備、8月から実施した。担当教員による学生指導を充実させたほか、事前・事後指導の内容を改訂した。学生数は、前年度の50名から99名へと大幅に増加し、学生の就職に対する意識も高まった。  
これまでに行われた産学官の共同研究プロジェクトの内容と成果を地域貢献委員会で取りまとめ基礎資料を作成、今後の共同研究プロジェクトの内容と手法について、地域貢献委員会で検討を推進  
( -2-(1)イb)
  - ・これまでに行われた産学官の共同プロジェクトを取りまとめた。由布市との小中学校情報推進支援業務、竹田市におけるコンピュータ・グラフィックスによる岡城復元計画(竹田市・大分大学・本学)、インターネットを活用する企業活動支援事業共同研究(ハイパー研・本学)を実施した。  
「音の泉コンサートシリーズ」(年6回)、「定期演奏会」(年1回)を開催し、県民に音楽の喜び、感動と癒しを提供  
( -3-(1)ア(イ)c)【2】
  - ・従来学内で催されていた「学内演奏会」を「公開学内演奏会」として一般公開して開催、前期成績優秀者による演奏会の開催、教員も加わったクリスマスコンサート「名曲の夕べ」の開催、「アンサンブルの夕べ」の開催など毎回異なる企画でバラエティを持った6回のコンサートシリーズを「音の泉ホール」で開催した。また、第42回定期演奏会を開催した。  
自治体の各種審議会・委員会に参画し、政策立案や企画実施の面で貢献  
( -3-(1)イ(ア)a)【2】
  - ・大分市と包括連携協定を締結した。また、大分市総合計画検討委員会都市基盤部会(大分市)をはじめとして自治体などの23の審議会・委員会に参画し、政策立案や企画実施の面で貢献した。  
関係機関の研修会やセミナー、文化講座、演奏会等の事業を支援  
( -3-(1)イ(ア)c)【2】
  - ・おおいた県民アカデミア大学での講演「ポルトガルの旅 - 南蛮人の故地をたずねて」

(大分県立生涯教育センター)をはじめとして25の研修会やセミナー、文化講座、演奏会等の事業を支援した。

小・中・高等学校からの教育実践上の相談や教員の派遣等の要請に的確に応える体制の整備 ( -3-(2)ア(イ)a)

- ・県立芸術緑丘高校と高大連携事業協定を締結した。また、小・中・高等学校等8校へ教育実践上の相談や教員の派遣等を実施した。

海外語学実習及び海外留学を希望する学生のための助成制度を充実

( -3-(2)イ(イ)d)【2】

- ・渡航経費抑制のため新しい海外留学先の開拓調査を実施し、オーストラリアのクイーンズランド・インターナショナル・ビジネスアカデミーと協定を締結した。語学実習に参加する学生には渡航費用の一部助成を行った。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	実施していない	十分に実施できていない	順調に実施している	上回って実施している
教育	86(7)			78	8(7)
研究	18			17	1
社会貢献	42(4)			37	5(4)
合計	146(11)			132	14(11)
ウエイト考慮後の合計	157			132	25

( )はウエイト付けした項目数

小項目146項目の全てが 又は の評価であることから、小項目評価の集計では、A評価(計画どおり進んでいる)となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

「2年制認定専攻科の取組は素晴らしいと思う。」

業務運営の改善及び効率化に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

小項目評価の集計結果では、12項目が全て の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。  
各項目の中に「十分に実施できていない」若しくは「実施していない」項目は認められない。  
以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

特筆すべき項目や遅れている項目はない。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	実施していない	十分に実施できていない	順調に実施している	上回って実施している
運営体制	6			6	
人事の適正化	6			6	
合計	12			12	

ウエイト付けした項目はなし。

小項目12項目の全てが の評価であるため、小項目評価の集計では、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

特になし。

財務内容の改善に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

小項目評価の集計結果では、12項目の全てが A の評価であるため、A (計画どおり進んでいる) となる。  
 「大項目評価にあたり勘案した事項」に示したように、教職員への周知徹底により光熱費の削減をしたことなど計画以上の成果を達成した事項が見受けられた。他の各項目の中に「十分に実施できていない」若しくは「実施していない」項目は認められない。  
 以上のことから大項目評価としては、A 評価 (計画どおり進んでいる) が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

特筆すべき項目  
 小項目評価が (計画を上回って実施している) の項目は次のとおりであった。  
 (( ) は小項目評価の記号【 】はウエイト付け)  
 光熱水費、印刷消耗品費、通信運搬費等の管理的経費の削減対策の策定と、教職員への周知徹底による経費の抑制 ( - 1 e )【 2 】  
 ・光熱水費は、削減目標 5 % を掲げ、夏季、冬季設定温度の徹底等削減対策を定めて教職員に周知し、経費削減に取り組んだ結果、対前年比 10 % の削減となった。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	実施していない	十分に実施できていない	順調に実施している	上回って実施している
事務効率化・経費抑制	5 ( 1 )			4	1 ( 1 )
外部資金等の獲得	4			4	
資産の適正管理・有効活用	3			3	
合計	12 ( 1 )			11	1 ( 1 )
ウエイト考慮後の合計	13			11	2

( ) はウエイト付けした項目数

小項目 12 項目の全てが A の評価であることから、小項目評価の集計では、A 評価 (計画どおり進んでいる) となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。



(3) 評価にあたっての意見、指摘等

「光熱費等の10%削減は、大変な努力の結果だと思う。」

教育、研究、社会貢献及び組織運営の状況に関する自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

小項目評価の集計結果では、5項目全てが の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。  
各項目の中に「十分に実施できていない」若しくは「実施していない」項目は認められない。  
以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

特筆すべき項目や遅れている項目はない。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	実施していない	十分に実施できていない	順調に実施している	上回って実施している
自己点検・自己評価	1			1	
情報公開	4			4	
合計	5			5	

ウエイト付けした項目はなし。

小項目5項目の全てが の評価であることから、小項目評価の集計では、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

特になし。

その他業務運営に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

小項目評価の集計結果では、7項目の全てが の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。  
各項目の中に「十分に実施できていない」若しくは「実施していない」項目は認められない。  
以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

特筆すべき項目や遅れている項目はない。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	実施していない	十分に実施できていない	順調に実施している	上回って実施している
施設・設備の整備・活用	1			1	
安全管理	4			4	
人権啓発推進	2			2	
合計	7			7	

ウエイト付けした項目はなし。

小項目7項目の全てが の評価であることから、小項目評価の集計では、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

特になし。